

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 3 月 23 日

所属部局・職	霊長類研究所 技術職員
氏名	山中淳史

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島生息地研修
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 3 月 11 日 ~ 平成 27 年 3 月 14 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
野生動物研究センター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
同行者：兼子明久 ¹ 、橋本直子 ¹ 、澤田晶子 ² 、鈴木崇文 ² (¹ 霊長類研究所 ² 野生動物研究センター)
概要：屋久島に生息するニホンザルの亜種、ヤクシマザルの生態およびその生息環境を体感することを目的に西部林道を訪れ、観察を行った。西部林道周辺をフィールドとして研究が行われている澤田晶子特定研究員に観察を指導していただいた。
西部林道は、屋久島の海岸線を走る県道 78 号線の一部を指す通称で、島の西部、北は永田、南は栗生の集落の間の約 20km の区間をいう。この区間には集落がなく、広大な照葉樹林が広がっている。屋久島の中でもヤクシマザルの密度が特に高い地域である(図 1)。
我々が訪れたときも、特段の探索も必要なく、ごく普通に路上のヤクシマザルが観察された。サルたちは周辺の照葉樹林で移動しながら採食し、その途上、林道上で一定の時間を過ごすようだった。交通量の少ない林道は、比較的日当たりのよい平坦地として、格好の休息場所のように思われた(図 2)。
サルとともにヤクシカも多数観察することができた。シカは、サルが樹上で採食する際に落とす枝葉などを目当てにサルの群れの後を追うことがよくあるという。今回の観察でも、サルを観察しているとどこからともなくシカが現れたり、樹上で採食するサルとその下で待ち受けるシカという組み合わせが何度も観察できた(図 3)。
印象的だったのは、サルがあまりヒトを気にしていないことだった。もちろん、近づき過ぎれば逃げたり威嚇したりするものの、一定の距離を保っていればサルはヒトの存在をそれほど意に介していないようであった(図 4)。
一方、同じヤクシマザルでも、他の地域で観察した群れでは少し状況が異なった。今回の出張では、サルの観察だけでなく、屋久島町の役場を訪問して、職員の方から猿害をはじめとする獣害のお話を聞くことができた。その中で、ヤクスギランドへ向かう県道 592 号線付近に出没するサルにはヒトにエサをねだるような行動が見られるという話を聞いた。心ない観光客がエサを与えた結果だろうということであった。実際に現地へ向かい、路傍のヤクシマザルの群れを見つけて観察をはじめると、サルがこちらへ走り寄り、数メートルの距離で何かを待つようなそぶりを見せた。ある 1 頭は、現場を立ち去ろうとする我々の車のボンネットに乗ってくるという始末であった(図 5)。
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先： report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

また、今回観察指導をしてくださった澤田研究員のお話によると、集落付近を行動圏に持つ群れのサルは、常々ヒトに追い払われているため、ヒトを見るとすぐに逃げていくという。同種で、しかも地理的に非常に近い場所に生息しているにも関わらず、ヒトへの反応がこれほど違うというのは驚きであった。理論的には、ヒトのサルに対する行動が、サルのヒトに対する行動を変化させてもなんら不思議はないのだが、野生という環境下で目の当たりにできたのは新鮮な体験であった。

今回の研修出張では、研修内容のコーディネートから観察指導まで、澤田晶子特定研究員には大変お世話になりました。ここに改めてお礼いたします。また、今回の機会を与えてくださった先生方、出張手配や留守中の業務を代行していただいた職員のみなさまにも深く感謝いたします。



図1 西部林道



図2 林道上でグルーミングするヤクシマザル



図3 林道上のヤクシマザルとヤクシカ



図4 西部林道のヤクシマザルは一定の距離を保っていればヒトをそれほど意に介さない。



図5 県道592号線で遭遇したヤクシマザルの群れの1頭。この群れの個体はヒトを見ると近づきエサを待つような仕草を見せた。うち一頭はこのように車のボンネットに乗ってきた。

6. その他 (特記事項など)